
編集後記

本学会誌 34 巻 3 号の編集が無事に終了し、発刊の運びとなりました。本号には、第 36 回日本臨床スポーツ医学会学術集会の教育研修講演 4 編、シンポジウム 17 編に加え、原著論文 11 編、症例報告 4 編が掲載され、臨床スポーツ医学が担う領域の広がり、実践に根差した学術的深化を感じさせる内容となっております。

教育研修講演では、膝周囲骨切り術後の生涯スポーツ継続、中年期から高齢期に至るスポーツ損傷への対応、アスリートハートと心筋症の鑑別、ハムストリング肉ばなれからの競技復帰が取り上げられています。いずれも、単に治療を完了させるのではなく、その人が望む活動へ安全に復帰し、長くスポーツを続けるための評価と支援の重要性を示すものです。

シンポジウム論文では、心疾患やがん治療と就労・生活の両立、妊娠期・産後の運動と競技復帰、コンタクトスポーツにおける医師・歯科医師・アスレティックトレーナーの連携、トレーニング負荷管理、熱中症予防、脳振盪の診断・認知機能評価・リハビリテーション、さらにラグビー、水泳、柔道における外傷・障害予防など、多様な課題が論じられています。競技者のハイパフォーマンスを支える知見を、一般の人々の健康や生活機能を高める「ライフパフォーマンス」へとつなげる視点は、本号を貫く重要なメッセージといえるでしょう。

原著論文では、女性エリートアスリートの膝アライメント、フィギュアスケート選手やジュニア体操選手の外傷・障害、高校生長距離選手の身体組成、発育期の膝関節軟骨厚など、競技特性と成長発達を踏まえた研究が報告されています。また、ACL 再建術後の高強度インターバルトレーニングや日常生活評価、片脚着地の成否と筋力・足部アライメント、大学バスケットボール選手の慢性足関節不安定症、ACL 損傷予防用ストラップの効果など、予防から復帰までの臨床判断に直結する知見も充実しています。

症例報告からは、稀な腱損傷、膝周囲骨切り術後のスポーツ動作再獲得、ストレッチに伴う損傷、アキレス腱断裂後の深部静脈血栓といった、日常診療で見逃してはならない課題を学ぶことができます。本号は、競技復帰のみならず、生活への復帰、就労との両立、そして生涯にわたるスポーツ参加までを見据えることが、臨床スポーツ医学の役割であると改めて教えてくれます。本号の知見が多職種対話を促し、年齢や健康状態を問わず、人々が安全にスポーツへ参加し続けられる社会の実現に役立つことを願っております。

(広瀬統一)

日本臨床スポーツ医学会誌 第 34 巻 第 3 号

2026 年 8 月 31 日 発行

編 集 者 一般社団法人 日本臨床スポーツ医学会 編集委員会
勝川史憲 (委員長)、磯 良崇、鎌田浩史、蒲原一之
高木 博、高澤祐治、武富修治、塚原由佳、友利杏奈
鳥居 俊、中嶋耕平、中山晴雄、難波 聡、広瀬統一
星野祐一、三谷玄弥、山崎哲也、山本利春、吉川貴仁

発 行 者 一般社団法人 日本臨床スポーツ医学会
〒104-0041 東京都中央区新富 2-4-14
新富田所ビル 4 階
一般社団法人 会議支援センター内
TEL : 03-6222-9874/FAX : 03-6222-9875
E-mail rnsp@rinspo.jp

制 作 株式会社 杏 林 舎